日本白血病研究基金令和３年度 研究助成 運営委員長挨拶

認定特定公益信託日本白血病研究基金

運営委員長 水谷修紀（東京医科歯科大学名誉教授）

白血病は小児がんの半分を占め、また今後成人／老人での増加が懸念される深刻な病気です。近年ゲノム医療・医学の進歩に伴い、基礎研究と臨床研究の融合が大きな成果をもたらし、治療成績は着実に向上しつつあります。このような進歩を支えるためには地道な研究が必要とされ、欧米では英国の Leukaemia UK、米国の Leukemia Society をはじめとする民間の財団が推進役として大きな役割を担っています。

日本白血病研究基金は 1992 年に患者家族の寄付によって誕生した厚生労働省の認定特定公益信託基金です。その後草の根運動によって大きく成長して来ています。 本研究基金は白血病専門医／研究者や専門学会への協力などを通して白血病問題の根本的解決に向けた闘いを支援しています。がんのゲノム医療や遺伝子免疫治療、核酸医薬の展開など新しい科学により新しい治療法が開発されつつある昨今、「市民の力で病気を克服する」という「医の原点」を象徴する存在として、これからも努力して参ります。

今年もコロナ禍にも関わらず、多くの国民の方々に多額のご寄付を頂戴しています。

白血病克服の日に向けて皆様の更なる御支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。